

# 2017 年度報 街中ゆったりカフェ

## ■ 目次

- 1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 活動記録概要・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 活動記録詳細・・・・・・・・・・・・ 2
- 4. 美術作品 ka 氏・・・・・・・・・・・・ 8
- 5. 寄稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9  
    Yam 氏・・・9、bun 氏・・・10、to 氏・・・16
- 6. おわりに・・・・・・・・・・・・・・ 20      end=20



会場風景

## 1. はじめに

本会は 13 年 11 月に発足した「皆さんで楽しむおしゃべり会」です。はやいもので 4 年半たちました。月一回の頻度で種々の話題を持ち寄り楽しめたかと思えます。

ここに、恒例の会報を作りましたので、この一年を振り返りたく思います。見ていただければ幸いです。なお、会の詳細は、HP を見てください。

<http://buna.html.xdomain.jp/cafe.html>

## 2. 活動実施概要

各月の例会は 13:00-15:00、音杉公民館にて実施。以下に記録を掲載します。

第 11 回 3 月 29 日(木) 参加 8 人(初 1 人)

第目:上市のキノコについて、講師:gos 氏

第 10 回 2 月 28 日(水) 参加 6 人(初 1 人)

題目:日本の技術について、講師:gos 氏

第 9 回 1 月 25 日(木) 参加者 5 人

題目:下田の金山について、講師:gos 氏

第 8 回 11 月 29 日(水)、参加者 6 人

話題:上市域の地鉄駅舎、滑川の製鉄、

- 下田の金山、半導体、等
- 第 7 回 10 月 25 日(水) 参加者 3 人  
    歓談
- 第 6 回 9 月 27 日(水) 参加者 3 人  
    話題:有峰湖への流入水、名水、  
    葛飾応為
- 第 5 回 8 月 23 日(水) 参加者 4 人程  
    話題:舟橋村、平和と歴史、歴史教科書、  
    富山湾岸など
- 第 4 回 7 月 26 日(水) 参加者 3 人  
    話題:富山人の気質、経済人の差別発言、  
    超常現象など
- 第 3 回 6 月 28 日(水) 参加者 4 人  
    話題:イ病、魏志倭人伝、上市について
- 第 2 回 5 月 24 日(水) 参加 3 人(初 1 人)  
    話題:上市の観光、富山の観光、  
    行政と市民、文化など
- 第 1 回 4 月 24 日(水)上市町福祉総合センター  
    町民学園開校式記念講演 山本氏  
    「ライチョウをまもる」で代用

### 3. 活動記録詳細 17 年度

#### 3.1 第2回例会 17年5月24日水曜、

今回は初参加の方がおられましたので、ゆったりカフェの目的とこれまでの活動について解説を先に行いました。その後、各人から話題提供を頂きながら、語り合いを楽しみました。以下のその内容を記します。ただし、メモですので 100%正確ではないことを冒頭お断りしておきます。

##### ◆観光

- ・北陸新幹線開業効果は大。より発展させる方策が今後必要。
- ・県の観光ブランドデザインが紹介。アニメによる街おこしとして、高岡・氷見・上市の連携を前提とした検討が県議レベルで始まった。
- ・花の家についてもより大きな観点で検討していくべき。
- ・拠点となる県の博物館がない。

##### ◆行政と市民との連携について

- ・市町村レベルの行政ではなかなか勉強を深めることが少ないので、大和市や恵庭市のように行政と市民一緒の勉強会が功を奏しているという。各地市町村も参考になればとも思う。

##### ◆上市人の気質

- ・県外出身者から富山人、上市人の気質について本音が聞けた。

##### ◆文化

- ・旧大山町では大山歴史民俗研究会があり、富山でも歴史研究会があり、それぞれ活動している。上市には研究会がないのが気にかかる。
- ・県内のほとんどの博物館の友の会会員になっている。いろいろと学芸員が教えてくれる。質問するとより詳しく教えてくれる。
- ・縄文遺跡：竊穴住居で囲炉裏で暖をとっているとはいえ地面上に草マットを敷いても寒くないものですかねえ。

##### ◆農作物

- ・サトイモも、地中に生めて保存。新葉をしいている。

新葉はねずみが嫌がるという。

- ・彼岸花の根っこには毒があり、ネズミやモグラ除けとなっている。田んぼや畑の周辺あぜ道には彼岸花を植えているのはそのためという。

##### ◆よもやま話

- ・江戸時代、旅人が途中で行き倒れた場合、家族にそのことを伝えたという。
- ・飛越地方(猪谷)の関所に行ってきた。あの奥地にもボール遊び(野球)が入ってきた。翌年野球部を作ったという。
- ・北前船のはなしや金魚の葉っぱの椿の説明あり。

#### 3.2 第3回 17年6月29日(木)0

##### 各自話題提供

##### <1> 卑弥呼・邪馬台国について

Kouさんが魏志倭人伝を和訳されたので、邪馬台国論議が7月13日木曜午前中に宮川公民館にて実施とのこと。資料は身近な方になら見せていいと作者からの許可を得ているので、後日、メールで資料送信することのこと。

##### <2> イ病講演会、福島原発事故

7月2日日曜午後にカツッパで若い弁護士による勉強会(講演会)があるとのこと。続いて、イ病について以下の項目を含めて議論した。

- ・地表汚染土を地中に埋めるという策は根本的には完全解決にならないこと。
- ・ファボーレや運動公園のところは地中廃棄になっていないこと。
- ・この考えは福島原発対応でも一時あったが、さすがに不合理だと分かってからはかえりみられなくなった。
- ・広島や長崎の原爆投下の後、期せずして大風(台風?)があり、発生した放射能を広く拡散させたこと

いわれている。

・原発事故後、各地で除染が行われているが、これは放射性物質を海に流しているだけであり、その意味では移染にすぎない。移染はあたかも安全が得られるという幻想にしか過ぎない。

・なぜイ病がもっと早くに取り上げられなかったかについては、対象者が女性のため、男尊女卑や女性蔑視もあって、表に出るのが大幅に遅れたという。

・ニッカド電池の廃棄処理をどうするのか、今問われている。

#### <3> 大伴家持の歌について

上市に来たことがあるのだろうか、議論になったが、その道の研究者でも良く分からないとのことであった。

#### <4> 古代史の講演会

北代にて講演会の案内あり。そこで、地質のことが以下のようにクロスアップされている。三方五湖（若狭地域）では、地質堆積の宝庫といわれている。世界的にも有名と。

#### <5> 神社

神社の主は宮司である。この宮司さんは神社本庁から派遣の場合と地域で代々受け継ぐ場合との二通りである。芦倉では代々佐伯家が勤めている。岩倉では神社本庁からの派遣である。

#### <6> 立山登拝

上市では、大岩や黒川など歴史財産がある。立山登拝ということで、上市がもっと歴史を堪能できる場になるはず。

#### <7> 地元のことについては地元民が一番詳しい

歴史や文化の講演会を上市でやったときの町外の講師が上市に触れず。上市にきたら上市の話をすべし。

あるとき、万葉歴史観学芸員がどこそこかの講演会で「自分は勉強の世界では一番だが、風土歴

史は地元の方が詳しいので、教えてください」と謙虚に語ったという。なかなかいい話である。

#### <8> 資料

いろんな良い資料を集めている方がいる。その方が「資料を自分が持っているよりも、活用してくれる方がおられれば惜しみなく譲っている」とのこと。これまたいい話である。

#### <9> 修験者

修験者は鉾山に関係。鉾脈を探検ことを仕事にしていたという。修験者は書類残さず。鉾山関係だからだそうだという。

### 3.3 第6回 17年9月27日(木)

#### 各自話題提供

#### <1> 有峰湖に流れ込む水について by bun

・常願寺川の支流「和田川」に有峰ダムがある。和田川の流域面積は割合狭く、このため、ダム湖には一本東側の真川からと岐阜県の金木戸川から、導水トンネルを引いてダム湖に水をためている。  
・常願寺河は急流河川で有名であるが、これは逆に言うと河川長が短く、山間部流域面積が狭いことを意味する。

・そんな話題で大いに盛り上がった。

#### <2> 名水 by ho氏

・県民カレッジ自遊塾に岡岸氏主宰の「名水」講座があり、参加している。圏内のあちこちの名水を訪ねて、名水を味わうとともにその自然環境や風景を楽しんでいる。

・日本の水道水の衛生基準は外国に比してすごく厳しい。

・日本人は水の味がわかる。外国(欧)では水は硬水であり、生ではのめたものではない。だから、ビールやワインで水分を取っているとみえる。

・特別な場所だから名水。でも普通の場所の水もやはり水。もっと大切に。

・大岩には目薬の水がある。これは治療の水では

なく予防の水。

・水の味。飲みたいときに飲むからおいしい。山登りで飲むと本当においしい。

・大いに盛り上がる。

< 3 > 「葛飾北斎」の娘、上流画家「応為」について by to

・NHK 土曜ドラマと歴史ヒストリア(確か9/20)で応為が扱われていた。親子二代の画家の生き方が描かれていて面白かった。特に上達についての話があった。「苦しんで苦しんでもう絵を描きたくないと思った時が上達のスタート点」といったような話が面白かった。

### 3.4 第8回 11月29日(水)

各自話題提供

< 1 > 地鉄駅舎について by to

・上市の宮川、相ノ木、上市旧町の各地域の風情の紹介として、地鉄本線の当該地区における駅舎を中心とした地域話があった。駅は街の玄関、駅から漂う街の息づかいをかいまみた。

< 2 > 滑川の製鉄 by bun

製鉄技術について一般的な話があった後に、滑川で製鉄が産業としてあった。当時は、鉄鉱石でなく、砂鉄を対象としていた。その後、静鉄は衰退したが、過去に鉱工業があったことが何よりも驚きであった。

< 3 > 工業技術 by gos

・工業製品は、奥は偶然の産物である。半導体もしかり。日本が最先端の技術立国、といったはなしをされた。

< 4 > 下田の金山 by gos

・早月川の下田地区に、金山があった。今はコストの家系で閉山となっているが、結構りよすしつな均衡みゅあくのある金山である。(写真を皆様に見ていただきながら) 金山の観光資源を守っている。

### 3.5 第9回 1月25日(木)

題目：下田の金山について、講師：gos さん

講演内容

▲講師経歴 主なもののみ記す。

・学校時代は地元で電気を学び、名古屋で就職。

10年後に帰郷し、地元の電気系企業でパナソニックの半導体つくっていた。その後は自動車に搭載のパソコン部品を作っていた。品質管理もしていた。

・定年後には郷里でふるさとの会に携わる。上市の小学生に古里学習の一環で下田金山について実地でアソビしている。

・一般の方々には、今年は相ノ木、南加積、稗田の各公民館で講演させていただいた。

▲下田金山 話の要点のみ箇条書きする。

・採金には二種類あり、山金と砂金。

外国の多くは砂金。

日本の金山 佐渡、下田、鹿児島

・下田部落：信州より下田に移住 1142年

・下田の金の鉱脈：天正二年(1574)に発見  
金山坑口は数百ありといわれている。整備された坑口は10個程。

・越中七金山：富山県には東部と中部に

またがって7つの金山。

松倉、川原波、虎谷、下田、亀谷、吉野、長棟

松倉から下田まで金山、吉野や長棟は鉛。

金山発見年：下田 1574年、

河原波 1533年、虎谷 1615年、松倉 1394年

・金の属性

千数百度で溶ける、

不純物入ると700度くらいでも溶ける。

金は、当初は超新星爆発で作られるといわれていたが、

今は中性子爆発ではといわれている。

金は重く比重19。電気や熱を通す。

・金の証明

鑄造の人間しか品質は知らない。

後藤家のお品書きが本物証明。

金貨の品質を一般人は調べれないのでお品書きが必要。

・ 鉍毒

下田の三枚田地域では鉍毒で水が汚染。

飲まないようにしていたという。

洗練の時の水銀が大気中に放出され鉍毒となる。

・ 金の価値

武田信玄 貨幣制度作る。

豊臣秀吉 大判、小判を作る。秀吉は 200 兆円の資産

江戸初期まで、金は 80 数%の純度。それ以降は純度低下。

幕末から金が海外へ流出。金細工に使われる。

江戸時代では一両一石、明治には一両を一円

・ 年収、現在の貨幣価値で算定

徳川吉宗：1300 億

加賀藩主前田氏：1100 億円

杉田玄白：2200 万円 越後屋：17 億円

農民：660 万円

▲感想

・ 地元でよく調べておられる。もっと話を世に出して欲しい。

・ 記録に残すことが大事。ようやく面白さを感じている。

・ 有機物としての人間はテクノロジーで時代を作った。

今後は ai の時代。

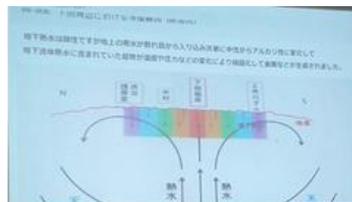
・ 宗教は 1000 年で終わりともいわれている。

日本ではキリスト教は 1 パーセント。広がらないのは仏教のため。

・ 人間、あの世は浄土の世界。(三次元ではなく) 数次元の世界のもの。

・ 人間は 60 兆の細胞からなり、120 歳までは生き

れる。



### 3.6 第10回 2月28日(水)

題目：日本の技術について、講師:gos 氏

講演内容 講師を第一人称として記す。

#### 1. 経歴(講師)

- ・ 中学時代に真空管の時代を迎えた。
- ・ 高校時代にアマチュア無線の 4 級から 2 級まで制覇
- ・ 一級は名古屋でアマ無線資格を取る
- ・ 工業高校電気科を出てすぐに名古屋にて就職。
- ・ トヨタには 10 年いて、カステラの設計などを担当していた。特に、ブラジルへの輸出品を作っていたので、国内の低出力電波対象ではないので、その意味でも苦労した。
- ・ 28 才で地元に戻る。もどってからは、オプソールローダーなどを作っていた。
- ・ 無線機 100W の機械を購入。費用は一ヶ月の給料分の高価なものであった。

・名古屋にいた頃からトランジスタの時代に入った。当時はゲルマニウムの時代。その後、80度くらいしか耐えられなかったゲルマニウムに変わり百数十度の熱に耐えられるシリコンとなった。この時点でやっと半田コテが使える。当時が画期的なことであった。

## 2. 科学技術と社会

・科学技術により世の中の生活がなりたっている。文学や思想ではない。ただ、技術は良かれと思っ

てよく暴走する。

## 3. 世の中分らないこと多し

例として水を取り上げる。

・水の感覚的呼び名：白湯、お冷、水、これら名称温度の対応は分からない。

・水について、氷になると堆積膨張。水以外の物質は固体になると体積が縮小するのに、水だけが固体(氷)になると体積が膨張する。なぜそうなるかは未だに分ってはいない。

## 4. 技術者の心意気

・技術は世のため人のために行使するもの。公が先、私が後である。

中華思想や西洋思想では、自分がよければいい。

・公のために精神性を尽くす。会社の方針に逆らい中村氏が青色がイトドをつくったのも公のためだからであるとされている。

・日本の技術者とは「くそまじめ、一途、成功まで根性」の三点。偉業は馬鹿でないと出来ない。

## 5. 経営

・社長の仕事は後継者を育てることにある。三代もぼんくらトップが続くとダメ。

・技術屋は時代に合わせる。公があつて、次に私がある。

・逆らってもごり通す。技術屋はそんな気質を持っている。

## 6. 技術者気質

平生は会社の与えられた仕事をこなしていても、引き出しには自分の好きな仕事を引き出しにしている。これが技術者の気質の現れである。

## 7. 技術のアイデアと技術への姿勢

技術開発では大企業は何もしてない。下請けが何万社あつて、そこでアイデアが出されているのである。

半導体については、当初は1万個作って1個できれば上等の世界であった。リーは、1個が可能ならいけると考え技術開発に乗り出したという。リーの姿勢がほかの企業とは違っていた。

## 8. 考えひとつで技術が実現

量子コンピュータ、ホンダのジェット機、リア新幹線、など、アイデアは皆日本の技術者である。

リョウシコンピュータは東工大の先生のアイデアである。

ホンダジェットはホンダに入社した社員が飛行機以外には仕事をしたくないとこだわったという。

会場からは、リアについて、「そんなに急いでどうする」、「北陸新幹線を大阪につなげては」などの意見が出た。

## 9. コンピュータ

これまでのコンピュータは0か1のビット信号のマシン。5V電流を1とし、0Vを0とする。今は1.25Vを1としている。

今は光粒子が使われだしている。電気が不要となっている。

電流を使う場合には、超伝導下では理論と現実が一致する。

## 10. 量子コンピュータ

・量子力学では無(0)と有(1)が混在する性質がある、これを利用したのが量子コンピュータである。

・関連のビデオを鑑賞する。

## 11. オリンピックとコンピューター

今回の冬季オリンピック：オリンピックに照準をあわせて3年前からお金と人材を投入して、金メダルラッシュとなった。すなわち、3年先までの

選手用のプログラムづくり、これにしたがってコーチが選手を指導していた。その成果が実ったのである。

## 12. 故障への対処

一般の企業では故障に関し原因結果を明らかにしてから対策を講じる。しかしトヨタの場合、原因究明でなく、真実を探るという姿勢である。このため、トヨタ製品はめったに故障しない。

## 13. 人間の働きをコントロール

トヨタでは15分間隔で人間の仕事をコントロールしておいる。これについていけない人はロボットに置き換わる。

## 14. 都会集中

都会集中 都会志望が未だに多い。

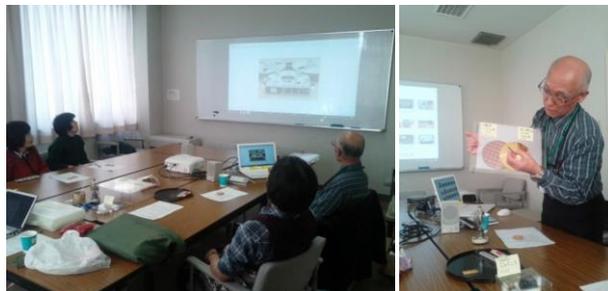
会場からは「何であんな所に住むんでしょうか」、「働き口が多いんでしょうか」などの意見がでた。

## 15. 今後の技術世界では

東京オリンピックを境にして  
自動化、車自動運転(今は特区を作ってデマンドバスで実施)

◆ ほかに、CO2の問題など多岐にわたって話題提供がありました。Gosさんの技術に関する造詣の深さには敬服いたしました。

以上、楽しいひと時でした。



#### 4. 美術作品

Kat 氏作品



桐箱を活用した半立体作品 三点



出品票	
部門	押絵
種	桐箱
出品者氏名	嘉藤 俊子



## 5. 寄稿

5.1

2018.04.12 yam 氏

### 「個人の尊厳」を実現するためのたたかい

山口 和子

私は「別姓訴訟を支える会・富山」(主に原告団長の塚本さんを支援)事務局の一員として、2011年2月提訴時から活動してきました。それと並行して翌年、本間さんの「男女賃金差別は許さない」との勇気ある訴えに感動し、「ともにたたかう会」にも参加しました。

本間さんが裁判の過程について、その都度たたかう会に報告されたおかげで、裁判を身近に、そして原告になることの大変さをひしひしと感じました。弁護士とのやりとり、何度も準備書面や陳述書を周到に練り直して書かなくてはならないことなど、法律用語の全くわからない私には気が遠くなる作業に思えました。また、何より法廷で被告側から虚偽・欺瞞に満ちた言葉を聞かされる屈辱に冷静に耐えなくてはならない等々、並大抵の苦難ではなかったでしょう。

本間さんは強靱な意思と優れた能力で、それを見事に乗り越えられ、あっぱれでした。それだけでなく、回を重ねるにつれ、個人の問題から普遍的な女性差別問題へとつなぐ布石になろうと志を高くされる姿勢に敬服するばかりです。もちろん彼女を影日向に励まし続けた「たたかう会」や全国で裁判をたたかった逞しい女性たちの力強い応援が、更なる後押しになったと思います。

本間さんが裁判の過程で最も憤りを覚えたことは、女性差別であり、個人の尊厳を踏みにじられたことだったと述べておられます。これは別姓訴訟の肝でもあります。

どちらの裁判も完璧といえる弁論・陳述を展開しながら、敗訴という結果になったのは、日本の司法の問題が大きいと思います。立法裁量という司法権放棄に等しいことを度々発する最高裁。もっと女性判事がいたら・・・、ヒラメでなく、人権を尊重する判事がいたら・・・との思いが募ります。

宮地弁護士が、「日本国憲法は『個人の尊厳』の原理を達成することを目的とするものであり・・・」と話されました。裁判官には基本の基であるはずのことがなぜ実現しないのでしょうか。それは憲法を活かす努力怠慢の国民の責任ともいえるでしょう。小学生でも違憲訴訟をするコスタリカに学ばなくてはなりません。女性差別撤廃を推進するには、国会及び地方議会に女性議員を増やすことが不可欠だと思います。

私が「ともにたたかう会」の一員として、本間さんを少しは支えられたとしても、「たたかう」に値することは何もできなかったのではないかと反省しています。今後も「個人の尊厳」実現に向けてたたかいは続きます。自分のたたかう課題は何か。まずは、改憲が身近な問題になりつつある今日、憲法を学び活かす場づくり、異を唱えることを是とする社会づくり教育だと再認識し、一步でも前へ進めたいと思います。

## 魚津八幡宮の小型狛犬

文山 純子 翻刻・資料編集 平井 一雄

狛犬の会の方より魚津八幡宮に赤い石の狛犬があり、大変めずらしいと連絡がありました。さっそく行ってきました。神社の方をお願いして、奥より狛犬を出していただきました。2体並べると外側の足が少し前に出て、一見かわいく見えたが顔の表情は角度によってはすどく、こわくも見えました。(注1) 魚津八幡宮

神社の方は「江戸時代のもので、旧本殿で雨ざらしになっていたと伝えられています」と話されました。狛犬の大きさは台座も入れて30センチ位で両方とも角はありません。両方の尾は大きく欠け、身体も所々、少し欠けています。このような狛犬は普通、参道ではなく神殿(本殿)の前に置かれるものです。『片貝郷土史』の中の石屋さんの項に「平沢流紋岩と片貝石工の祖」があります。(注2) 片貝郷土史

「片貝川上流の平沢、山女、黒谷附近には通称赤紫色の岩石が多く産出する」と書いてあります。この狛犬は、平沢流紋岩で作られ、角閃石とみられる黒い石のかたまりが混じっています。台座に奉納者と思われる「松次郎」の名が刻してあります。狛犬の会の方は、台座が高いので明治時代のものではないかと言っておられます。『魚津町誌』明治43年発行には、神社の近くの橋場町に鍛冶職の林松次郎という人の名が有ります。明治40年に善行者として表彰された人です。狛犬を寄進したのはこの人ではないかと思われます。片貝石工と鍛冶職はかかわりがあったのではないのでしょうか。石工の道具は鍛冶職の人によって作られたり、修理されたりするからです。

魚津八幡宮は電鉄魚津駅より南方1Km位の所にあります。

注1、魚津八幡宮 『富山県神社誌』より

鎮座地 魚津市田地方407

祭神 菅田別尊、相殿天満宮(菅原道真公)

由緒沿革

白雉元年(650)、本村開墾の際創立。五穀豊穡の守護を祈る。

注2、『片貝郷土史』(平成9年7月発行)より

「一節 石屋さん」 ——平沢流紋岩と片貝石工の祖——

片貝川の平沢、山女、黒谷付近には通称平沢流紋岩と呼ばれる赤紫色の岩石が多く産出する。滝滝の駐車場にその露頭が見られる。平沢には緑色をした流紋岩もある。平沢流紋岩は地元では八川石とも言い、加工しやすいので古くから利用されていた。魚津市内の石仏や五輪の塔、板碑などの古いものはほとんど平沢流紋岩が使用されているようだ。言い伝えでは、江戸末期の天保年間に、前平沢の沢崎五次郎と弟の五郎衛門が石工をしていたという。この二人またはその後継者の作とみられるものには、小川山千光寺観音堂前の千手観音像、古鹿熊集落入口の道路わきにある観音像がある。ともあれ沢崎五次郎、五郎右衛門兄弟は片貝石工の先駆者といえよう。

魚津八幡宮全景



魚津八幡宮蔵 小型狛犬

「松次郎」銘台座



小川山千光寺観音堂前 千手観音



狛犬後部欠損部

三ツ組木盃

鍛冶場町二〇治

職 林 松次郎

資性温良一家親睦ニシテ、日夜家業ニ精勵シ  
公課ノ如キハ期日ヲ過ラス 納入セリ、其行爲  
町民ノ模範ナリト認ム、

明治四十年一月一日

『魚津町誌 善行者及人物傳記』

## 有 峰 湖 の 水

文山 純子 資料翻刻・編集 平井 一雄

立山の室堂平（標高 2,500 メートル）の平均降水量は 6,000 ミリメートルに達し日本でも有数の量です。富山市民大学の「うまい水のルーツを探る」の講座が大山歴史民俗資料館でありました。講師の山森潔さん（大山歴史民俗研究会会員）が「有峰湖の水は和田川だけでは不足で、岐阜県より水ももらっています。薬師岳の雨や雪は真川より常願寺川に流れます。」と言われました。その資料を私なりに探しました。

まず国土交通省北陸地方整備局より資料（注 1）をいただきました。岐阜県よりの水は金木戸川から取水して引水路で有峰湖へ送られてきます。金木戸川は双六川、高原川と名を変え、なんと神通川に流れてくるのです。これもびっくりでした。しかし雨量の少ない時には水はもらえません（注 2）、（注 3）。真川の水も導水路で有峰湖に入ってきます。有峰湖の水は和田川と真川で 8 割くらいになり、金木戸川が 2 割くらいだそうです。平成 29 年度秋の大山歴史民俗資料館企画展「水のゆくえー常願寺川一」で関係資料の一部が展示されていました。

注 1、『神通川水系河川整備計画』[大臣管理区間]

平成 29 年 12 月 国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所

注 2、有峰引水路：『有峰と常願寺川』昭和 56 年 11 月発行に次のようにある。

巨大な貯水容量をもつ有峰ダムの有効利用を図るため、豊水期における神通川水系金木戸川の水の一部を引いて有峰ダムへ引水する有峰引水路の新設が計画され、昭和 34 年 11 月に着工、37 年 12 月に通水した。金木戸川上流の双六川（実際は双六川上流の金木戸川）などから延長 11.6 キロのトンネルを通過して有峰東谷へ流入する。〔註〕カッコ内は平井記

注 3、池の尾発電所

北陸電力の有峰引水路工事の一環でつくられた発電所の一つ。着工 昭和 35 年 9 月 竣工 昭和 37 年 9 月

富山県側の有峰ダムの水は金木戸川、北ノ俣川でも取水しており水路トンネルで有峰湖へとつながっている。金木戸川下流には三井金属鉱業（神岡鉱業）の金木戸発電所があるため、一旦取水したうち一部を水量調節のため金木戸川に戻している。池の尾発電所ではその金木戸川へ戻す水で発電を行っている。

参考資料・『北陸電力 10 年史』昭和 37 年 4 月発行

・『北陸電力 50 年史』平成 13 年 11 月発行

・インターネット資料「金木戸森林鉄道」

有峰開発計画が富山県営の電気事業として取り上げられたのは大正12年であり、その後、いくたびか計画が変更され、昭和12年に至ってようやく着工の運びとなった。その計画は高さ110mのダムを築造し、有峰・和田川・真川第二・大品山発電所(計5万8,650kw)を新設しようとするもので、14年にはダムコンクリートの打設が開始された。やがて、電力の国家管理統制が実施され、同計画は17年に日本発送電(株)に引き継がれたが、戦況の悪化によって18年9月、全工事を中止した。

戦後、この計画を引き継いだ当社はこれを全面的に変更し、有峰貯水池と神通川水系跡津川を結ぶ有峰跡津発電計画(AAP)を策定した。この計画は有峰に高さ140mのダムを築造し、折立・有峰・和田川発電所のほか、跡津川に大多和・池の山発電所、あわせて5発電所(計21万7,800kw)を建設しようとするもので、この計画の特徴は、大多和発電所において豊水期に神通川水系の水を揚水して有峰貯水池に貯留し、これを渇水期に神通川水系の各発電所で使用することであった。しかし、電力需要の急増に応じるため富山県時代の旧計画ですでに導水路の一部が施工されており、主機も購入済みであった和田川発電所の建設を全工事に先立って着工することとし、30年9月、工事に入った。

しかし、この計画によって既設発電所と鉱区に影響を受ける三井金属鉱業(株)神岡鉱業所や、流域変更に反対する常東・常西土地改良区の了解を得るのが困難となったため、計画を全面的に見直し、31年4月、常願寺川有峰発電計画(JAP)として発表、32年12月に県の斡旋によってようやく関係者間の話し合いがまとまった。

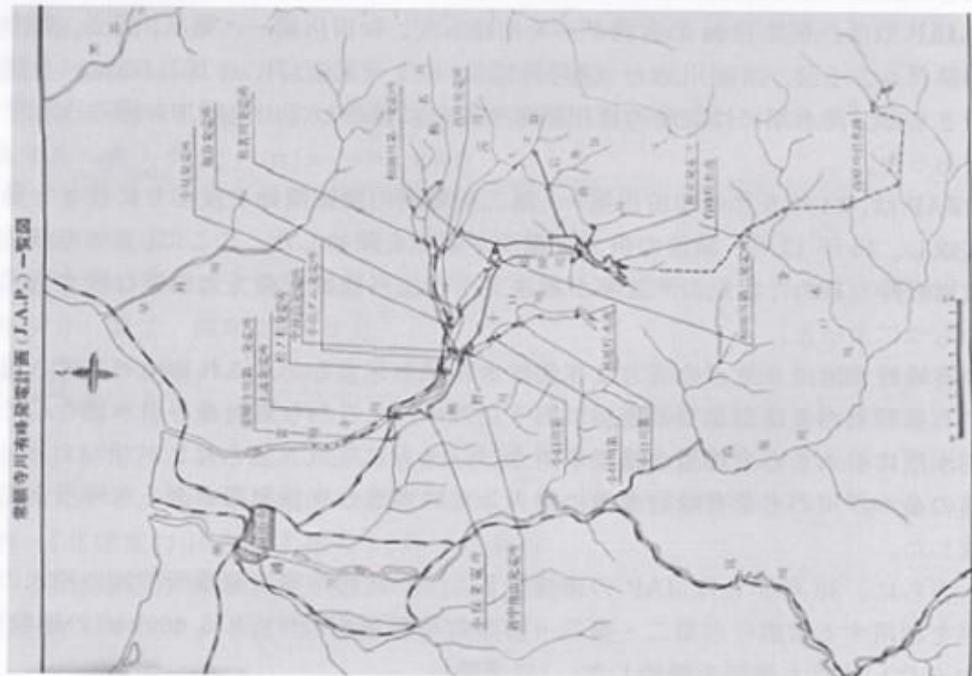
JAPでは、高さ140mの有峰ダムを築造して、和田川第一・第二、折立、新中地山、小俣ダム、小俣、常願川第一(2号機増設)の7発電所(計26万7,600kw)を建設するとともに、渇水期には既設の真川発電所などに補給して出力増加を図ろうとするものであった。

JAPは、34年6月の和田川第一・第二発電所の運転開始を皮切りに次々と発電所が完成し、35年12月、最後の折立発電所が運転を開始した。ここに、5年の歳月と近代技術の粋を集めた世紀の大工事が無事完了し、当社は初めて大規模な貯水池式発電所をもつに至った。

有峰貯水池は2億 $m^3$ の巨大な有効貯水容量を有するが、これに比べて流入量が少なく有効貯水容量にかなりの余裕があったため、大谷から東坂森谷引水路を経て、有峰貯水池に引水する大谷引水路工事が36年12月に完成、さらに、37年12月、神通川筋の金木戸川の水を有峰貯水池に導入して貯水池の有効利用を図る有峰引水工事も完成した。

さらに、36年からはJAPの増強策として、常願川第一発電所下流の用水の遊休落差を利用する常願寺川第二・第三・第四の3発電所(計1万5,000kw)の建設を進め、39年にいずれも運転を開始した。(以下略)

図版 2、「北陸電力 10 年史」より



図版 1、「神通川水系河川整備計画」〔大臣管理区間〕より

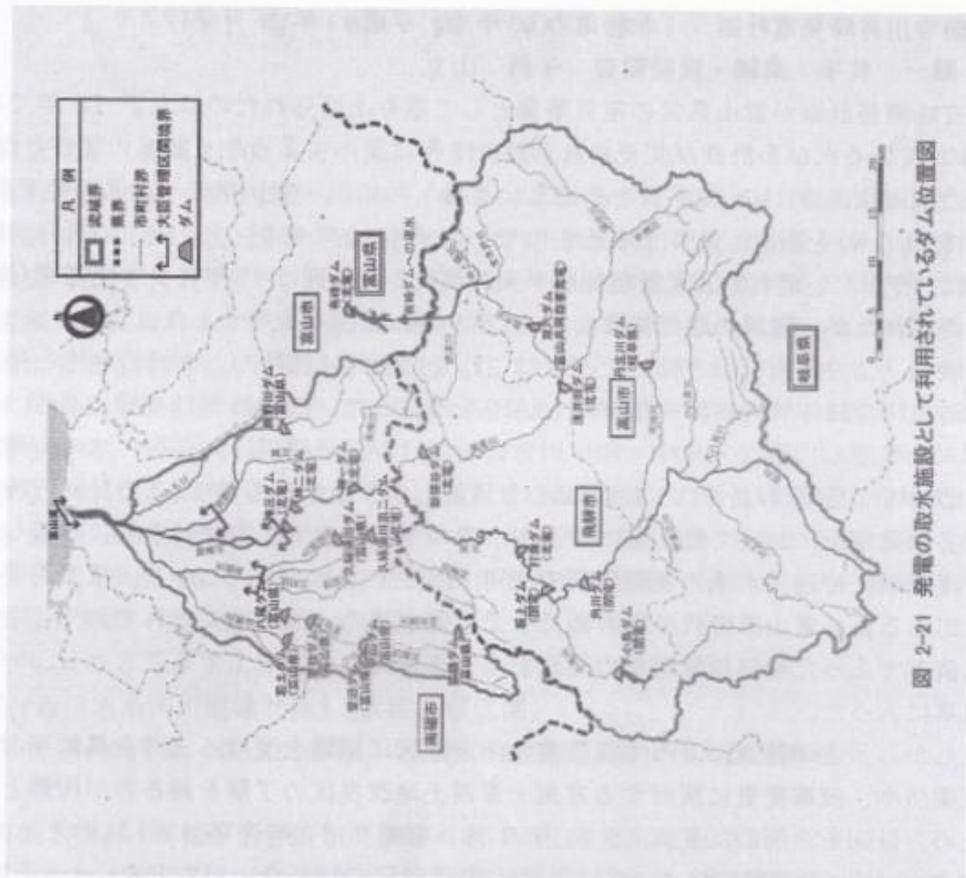


図 2-21 発電の取水施設として利用されているダム位置図

図版 3、『北陸電力 50 年史』より

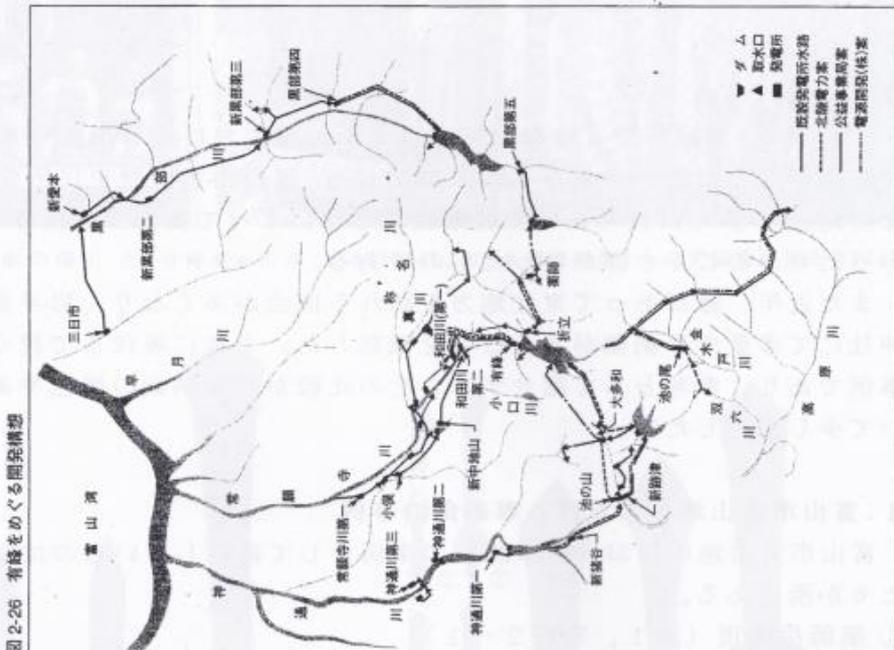


図 2-26 有線をめぐる開発情勢

図版 4、『北陸電力 50 年史』より

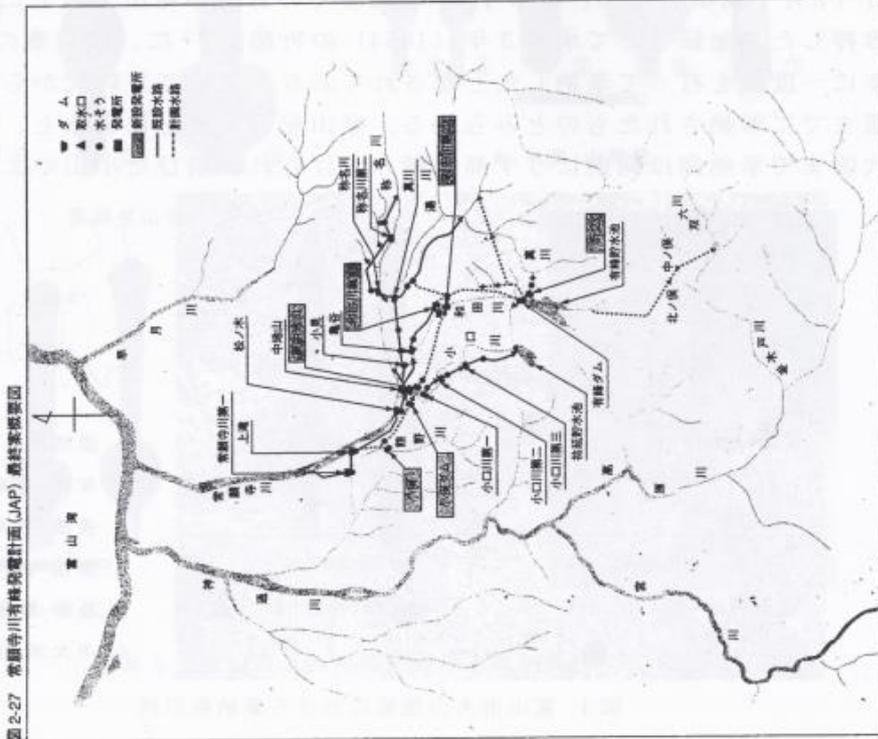


図 2-27 常陸川有線発電計画 (JAP) 最終案概要図

## 5.3 お米の物語～～水田とご飯

2017.08.30 寄稿

地域愛好家 To 氏

### 1. はじめに

ご飯を食べていて、お茶碗一杯のお米はどのくらいの田んぼからとれるのかなあ、とふと思う方は少なくありません。米食がかつての程ではないにしても、自然の恵みに感謝するという視点からも、お米の問題は結構気になります。

そこでここでは、田んぼの広さとお米の量について、述べてみることにしました。お付き合いください。

### 2. お米の容積

食するお米の容積から述べてみます。米の収穫は年に一回だけですので、米の食する量も年間で算定してみます。食する量(容積)はお茶碗で数えますと、茶碗2杯が1合(ゴリ)です。1日3回を米食として毎回茶碗2杯を食べるとします。以下に、年間の米の量を算定します。

茶わん2杯=1合、1日3回食で3合(0.45kg)。

一年間にすると、

3合/日\*365日=1095合=1000合

です。容積の単位は合だけでなく、升(シヨウ)、斗(トウ)、俵(ヒョウ)、石(イシ)があります。単位換算をリットルと重さも入れて記します。

1石=10斗=2.5俵=150kg=180リットル

1俵=4斗=60kg=72リットル

1斗=10升=15kg=18リットル

1升=10合=1.5kg=1.8リットル

1合=茶碗2杯=150g=0.18リットル

算定式に従えば、1000合=1石ですので、

1石 = 1人が1年間食べる米の量

です。それにしても、石、升、斗、合は本当によくできた計量単位ですね。



米俵

### 3. 耕地面積 (田の広さ)

農地の広さについては、まずみなさんにとってなじみ深い坪(つぼ)からいきましょう。一坪は  $1.8m \times 1.8m = 3.3m^2$  です。畳二枚分の広さです。

土地の広さには坪のほかに反(タ)、町(チョウ)の尺度を使います。以下に、単位換算を記します。

1町=10反=3000坪=ほぼ1ヘクタール=

$0.01km^2 = 100m \times 100m$

1反=300坪=ほぼ10アール= $1000m^2 = 10m \times 10m$

1坪=3.3m<sup>2</sup> (畳二枚)



耕地例 3反1区画

### 4. 収穫量と農地面積の関係

(1) 近世まで

収穫量と農地面積については昔から

1石=1反

の関係があります。米1石は偶然にも農地1反で収穫できる量なのです。

ではここで、一回の米消費量1合と農地面積を対応させてみましょう。

1石=1反=300坪 = 1000合

1合=300坪/1000=0.3坪

3合=0.3坪\*3回=1坪 1日の食す米の量

要は1日のご飯は1坪の水田の収穫量となります。

これも出来すぎるくらいできたエガントな関係ですね。

(2) 現代

現代では昔に比べ、3.5倍程に生産性能が飛躍的に向上し、米の収穫は

1反=3.5石=8.8俵=530kg

です。

一方、米の年間の消費量は、近世では1石 150kg、

近代では二俵(0.8石)120kg、平成に入ってからにはさらに減って1俵60kg(0.4石)程度となっています。

生産性向上と消費減少のダブル要因により、米の一人当たりの年間消費量と耕地面積との関係を再試算すると、

**生産：一反→3.5倍。**

**消費：1石→半分。**これまでの一石を二年かけ食す

関係：一反=3.5倍\*(1/0.4)倍の石=8.8石=10石

一反は10人分の年間消費量に対応。

**0.1反(30坪)が一人あたりの年間消費量。**

一坪で、10人分の一日米消費量

現代では、昔の1坪1日食ではなく、**0.1坪で一人分一日食**ということが出来ます。

## 5. 稲穂から米粒まで

### (1) 耕地、稲穂、米粒

耕地一坪に稲穂がいくつあって、何粒撮れるか試算して、稲穂がご飯に見えるようにしましょう。

田植えは水田長辺方向に21cm間隔、短辺方向に30cm間隔で位置を決めて、一束2~3(最近5)苗で植えていきます。坪当たりの束数は、坪一辺180cmですので、水田長辺方向には $180\text{cm}/30\text{cm}=6$ 、短辺方向には $180\text{cm}/21\text{cm}=8\sim 9$ 、ゆえに1坪に50株があることとなります。また稲穂については株あたり5苗として、これが成長して25穂になり、一穂あたり100~200粒ですので、一坪当たり、

$50\text{株} * 25\text{穂} * 100\text{粒} = 125,000\text{粒}$

歩留まりを勘案して、120,000粒

坪10人米食として、一人当たりの一日の米粒数は12,000粒ということになります。



田植え

実った稲穂 (稲のHPより)

### (2) 食事では

一介に食する米粒については、重量計算で割り出さ

れており、**1合の米は6600粒**といわれています。

1日3合では2万粒となります。これが昔なら1坪の米粒数です。

では現代、一日が12000粒とどういうことかといえ、 $12000/6600=1.8$ 合となり、**一日2合弱しか食**していないということです。朝はパン、昼と夜に一合ずつ、米食ということで、確かに帳尻は合います。

### (3) 水田に出かけ

水田に出かけ、一坪の面積を目で設定して**稲3束分**が一日のご飯に変わるのです。そう思うと、米粒大事、稲穂大事、耕地大事、水田大事ってことになっていきますね。

## 6. おわりに

食卓でお茶碗一杯の米、1日の米について、耕地面積や価格との関係をみてみました。いかがでしたでしょうか。

とにかく、一坪の耕地面積の稲穂は10日分の米になります。一年では、0.1反(30坪)の耕地面積が必要ということです。昔は1反が年間コメ消費量でしたので、米余りが実感できます。

とはいえ、そんな心配をよそに米食は美味しいですねえ。おしんこがまた食をそそりますし。作物は美味しくいただくのが一番です。

そんなことを思いつつ、ここにお米物語として書き物をいたしました。

## 上市域の地鉄の駅巡り 2017.11.29

上市に長く住んでいると、上市全体が庭のようにみえ、何の不思議もなく学校や駅や商店などが空気(大気)のような存在にみえてくる。そして、大気には街から醸し出されてくる生活の営みの匂いがたなびかせてもくれる。そんな街中の居住を楽しんでいると、何につけ理屈めいたルーツが知りたくなり、上市域にあるいくつもの駅が急に気になりはじめた。駅は上市町の交易や通勤通学の拠点として、我らの生活を長きにわたり支えてきているだけに、駅と駅周辺の大気を風物として述べることにした。お付き合いください。

## 新宮川

まず駅名から。昭和の合併前までは宮川村とよばれた地域の中心に軽便鉄道時代の宮川駅が建てられていた。その後、軽便鉄道が廃止され電気軌道の駅として宮川の地に駅ができたために、当該駅には後発の駅という意味で「新」という冠が駅名についたようである。



次に、駅舎の変遷から。50年程前に駅舎はまずまずの風情のある建物であったが、鉄道事業の合理化により、100m南にホーム一個の無人駅となった。その後は、数年前から公共交通見直しの一環でパークアンドライドの機能が備わった。なお、パークアンドライド施設では、自転車は20-30台、車は60-70台ほどのパーキングに加えてトイレと待合スペースもあり、上市町民はここに車を置いて通勤や買い物に利用している。



## 上市

地鉄本線では、上市を基点として北の滑川への路線と西の富山への路線がスイッチバックで結ばれている。これは、滑川からや富山から直接、大岩不動に乗り入れる計画によるもので、1931年には現在の当時上市口と呼ばれていた駅から0.6km程東に行ったところに上市駅があり、大岩乗り入れが準備されていたという。その後、戦時により計画がとん挫し、盲腸のような路線がネックとなっていたので、1943年には上市口と上市の間が廃止され、上市口が今の上市駅となった。

そんな上市駅では、車両基地や貨物専用ホームをも有し、路線のスイッチバックにより駅正面を有する拠点駅としての風格があった。しかし、町の中心が昔の上市駅と呼ばれていたところであったので、駅前には簡素な広場と、その横には通勤



客が自転車でやって来て駐輪するいわゆる駐輪店舗が二軒のみであった。また、当時は駅前には細川企業の工場があったために、商店がいつかなかった。

1972年には駅舎を取り壊し、農協のショッピング駅ビルが建設され、駅はその中の一部に収まった。今まで駅前に商店がなかっただけに、大きな期待を集めた駅ビルには、食料品スーパー、家具スーパー、本屋、洋品店、喫茶店、菓子家、飲み屋街、ボーリング場、パチンコ店、ゲームセンターなどがあり、多くの乗降客や地域住民で一日中賑わっていた。

しかし、2000年ころから乗降客の減少に伴って、多くの店が撤退し始め、2010年頃には駅ビルは農協の事務所として使われ、いわゆるお店はパン屋さんと一軒の飲み屋のみとなってしまった。

(ボーリング場やパチンコ店は1980年代頃に撤退)

そんな駅ではあるが、富山や魚津方面からやって来る上市高校に通う生徒たちで朝夕はにぎわっており、また富山駅周辺の駐車場難もあって少なからずの勤め人も電車を利用している。やはり、駅は昔程ではないにしても我らの生活を支えているといえよう。

## 新相ノ木

2013年に上市と相ノ木の間に設けられた新駅である。もともと、相ノ木駅と上市駅の間が2kmと長い距離であり、しかも相ノ木駅そのものが窮屈で手狭なため、新駅が望まれていた。そこに相ノ木地区のいくつかの新興住宅団地ができたことにもより、新駅が設立となった。

新駅は上市街道(富山上市線)と立山魚津線という幹線道路がクロスする場所に立地している。ここら一带は田園地帯であり、数年前にショッピングモールなどいくつかの大規模施設がつくられ賑わいをみせている。そこにパーク&ライドで整備された駅が出来、

出来、一带はますますモダンな様相となった。

この地域から富山に通う通勤や買い物の皆さんは車を相ノ木駅前無料パークに駐車し電車に乗り換えている。かつては、舟橋駅もパーク&ライドで無料パークがあったので、上市の人たちが舟橋を利用していたが、パークが有料になった後は、新相ノ木を利用するようになった。



## 相ノ木

相ノ木は上市町の西端地域一帯であり、奈良時代の頃には条里制がしかれ、古くから開けていた起伏のない広々とした水田地帯である。最近では周囲に多くの新興住宅団地が出来にぎわっているものの、相ノ木の元からの集落はいまもなおひっそりとしている。

相ノ木駅は受難の駅であり、1931年に(現在の相ノ木駅の場所に)設置されたものの、1944年には廃止され、1949年にやっとのことで現在の場所に再設置された。その後、1971年には新宮川駅と共に廃止が計画されたが、地元の要望で何とか存続ができたという。

駅は相ノ木集落の縁にくっついたという表現がぴったりする程、駅前広場も何もなく、幅1-2m程度の取り付け道から来て、いきなりホームがあり、待合小屋がある。このためか、周辺に新興住宅団地があっても乗客の多くは隣の新相ノ木駅を利用しているのが実状である。



## 6. おわりに

とにかくにも、一年間が過ぎました。振り返ってみると、月一回の皆さんとの語りあいの楽しさが思い出されます。こうして続いているのは皆様のおかげであり、感謝申し上げます。

今後とも、この語りを続けていきたいと存じます。皆様、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、まとめいたします。